

## 2016年度日本ジオパークネットワーク新規加盟・世界ジオパーク推薦認定審査方針 及び審査手順

### 1. 日本ジオパーク委員会審査の考え方

ジオパークプログラムは、ジオヘリテイジ（地学的遺産）の保全と活用によって、地域の持続可能な開発を目的としているもので、ジオパークはその実践を行う地域です。ジオパークの基本的な考え方は、IGGP の定めたガイドラインによります。日本ジオパークは、そのガイドラインに基づき、日本ジオパーク委員会が認定しているものです。日本ジオパークの認定審査においては、ジオヘリテイジの価値の評価と、その保全、活用の仕組みと取り組みについて審査をします。ジオパークの活動は、これまで各地域で行われてきた各種の取り組みの延長線上には、位置付けにくい側面があります。ジオパークの活動を継続し、より良いものを生み出していくために、新規地域の認定の際には、次のような考えに基づいて審査をしています。

「ジオパークを目指す地域は、持続可能な地域社会の実現のために、ジオパークとして、その地域にあったやり方で住民、行政、研究者などの関係者が、ともに考え続けているか。また、そのために、これまでのやり方を変える覚悟があるか」。

現在、39 の日本ジオパークがあり、世界には 120 の世界ジオパーク（2015 年 9 月現在）があります。それぞれの地域で上述の目的を達成するため様々な実践が行われています。新規認定の審査を受ける地域は、そうした活動の成果を十分に踏まえたいうえで、ジオパークの質をこれまで以上のものにする活動を展開する必要があります。

地域ブロックの活動等を通じて、先行しているジオパークの活動等を学び、ジオパークの基本的な考え方を理解した上で、審査に臨んでください。

### 2. 目的

- ・ 審査によって、各地域に存在するジオヘリテイジの価値を社会に示す。
- ・ ジオヘリテイジの保全と活用の方法を、JGC、JGN、地元の関係者とで共に考え、実践していく。
- ・ 各ジオパークと JGC が意見交換することにより、日本のジオパーク全体の方針・目標とそれを実現するための行動について互いに確認する。

### 3. 対象地域

- ・ 世界推薦審査地域：霧島、桜島・錦江湾
- ・ 日本新規審査地域：箱根、筑波山地域、浅間山北麓、鳥海山・飛島、月山、萩、下北

### 4. 新規認定審査で評価するポイント

- ・ ジオパークの活動に関わる人たちが、ジオパークの考え方を十分に理解しているか。
- ・ 地域の地球科学的環境について、理解し、その保全をはかろうという意思があるか。
- ・ 地域のジオヘリテージについて、その価値を伝えようとする意思があるか。
- ・ ジオツーリズム等の方法によって、地域の地学的資源の活用をはかろうという意思があるか。
- ・ ジオパークの活動を今後、進めていくための仕組み、体制ができていないか。不十分な場合、今後どのように体制をつくっていくのか。
- ・ これまでにその地域で行ってきた事業や活動が、日本ジオパークになることにより、より発展することが見込めるか（保全、研究、教育普及、ジオツーリズムの振興と地域活性化の観点から）。
- ・ 認定以降に始めようとしている事業や活動について、ジオパークの理念に照らして適切かどうか。

- ・火山噴火、地震、土砂災害、洪水など、地域で起こった自然災害への対応事例や普及活動等、どのようなことが行われてきたか。
- ・世界推薦の場合は特にジオパーク活動実績を重視する。
- ・その他

## 5. 審査の方法

- ・各地域の申請書に基づき、審査員が特に確認したい点があれば事前に申請地域に伝えた上で、現地審査の日程を決める。
- ・代表的なジオサイトや拠点施設（候補地）の視察、関係者からのヒアリングなどを中心として現地調査を行う。現地審査員は JGC 委員 2 名および JGN の担当者 1 名とで構成する。JGN の担当者が主に現地との調整と記録を担当し、他の現地審査員と協議しながら現地審査報告書をまとめる。
- ・各現地審査報告書に基づき JGC で審議の上、認定の可否を決定する。その後、JGC の議論を踏まえた審査結果報告書をまとめ、各地域に提示する。

### (1) 審査員：別紙

(2) 事前提出書類：申請書および付属資料。世界の場合は加えて自己評価票。

### (3) 現地審査

審査員は、申請書の内容を精査し、以下に示した各点について不明な点があれば、審査員から現地事務局に対して連絡し、情報を提供するよう伝える。

- 地球科学の普及活動
- 運営団体の予算・組織・役割分担や人材育成の状況（活動の質、継続的に活動できるか）
- 調査研究活動の支援状況やその成果
- 観光協会、地元旅行社など各種民間団体の活動、運営団体との連携状況
- ガイド養成の状況、既存のガイドの組織化。
- ジオツアーの内容
- ジオパークにおけるリスクマネジメント（緊急時の対応等）
- 自然災害への対処の状況（安全対策、防災教育への反映）
- 拠点施設の状況
- 解説板、ガイドマップ、ガイドブックの整備状況

- ・現地視察により、ジオサイトの保全状況、看板等の状況、ガイドの説明内容等を確認する。
- ・担当者と面談し、聞き取り調査をし、これまでの地域の活動状況、今後の展望について確認する。

### (4) 現地審査に当たっての留意事項

ジオパークの審査では、審査員や現地関係者が相手の立場や活動を尊重し敬意を払いつつも、各地の活動において優れた点や新たな視点について積極的に評価するとともに、懸念される点については審査過程において検証されなければならない。特に事務局に確認すべき指摘事項については、首長・協議会長や事務局などと詰めたやりとりが出来る時間を、スケジュールの中で必ず確保して、その場でしっかり考え方を確認しておくこと。重要な確認事項については、視察予定のスケジュールなどに関わらず、できるだけ積み残しをしないこと。

審査項目例 チェックポイント (①, ②, ③など数字で始まるのは重要項目)

I. ジオパークの名称とテーマ (配点小計: 15)

1. ジオパークの名称と全体のテーマ

- ① 地域の個性を生かしたテーマ
- ② メッセージ性があるか
- ③ 受け手に理解しやすいかどうか
- 外向け・内向けの区別をしてチェック
- アラカルト的にならないように、ありがちなキーワードでまとめない
- 変更することも考慮して議論

2. ジオサイトを束ねるストーリーないしサブテーマ

II. ジオサイトと保全 (配点小計: 50)

1. ジオが人間に与える恵みと災いを、生態系や歴史・文化と関連づけたジオサイト、ストーリー

- ① 地域の景観の成り立ちがわかるか
- ② ツーリズムでサイトを巡りやすいストーリーになっているか
- ③ 日本全体とつながるようなストーリーとなっているか (例えば 3.11 の地震との関係)
- 全体のストーリーの中に加えて個別のサイトでも楽しめるストーリーがあるか
- ストーリーに無理がないか (科学的根拠のあるなしを明確に)
- ジオが人間に与える恵みと災いをその地域の材料で伝えているか
- 見えないもの、大地の動きが伝わるストーリーになっているか
- 地球全体の中での日本列島やその地域の位置づけがわかるようなストーリーがあるか
- 生態系や歴史・文化と関連づけたストーリーがあるか

2. ジオ多様性 (Geodiversity)

- ① ジオ多様性の意味と重要性を意識しているか (biodiversity や文化的な多様性とも関連づけて)

3. 科学的・教育的に見て世界的・国内的に重要な複数のジオサイトの存在

- ① バックグラウンドとして科学的裏付けが必要 (申請書の記述など)

注: 「重要」は科学的価値に加えて、教育的価値、ジオパークとして伝えたいことが良く伝わる場所かどうか、などの価値を判断する

4. ジオパークの範囲の適切さ

- ① ストーリーと関連があるか

5. 自然環境の法的規制による保護、住民による保全の状況

- ① 保全に関する全体指針および計画があるか
- ② ジオサイト等の保全すべき場所のリスト化ができているか
- ③ ジオパークにおける保全活動の基本的な考え方が地域住民や旅行者に伝えられているか
- ④ ジオパーク内の自然環境の保全, 活用に関して, 地域住民や観光業者等の利害関係者の合意形成を図る協議の場があるか
- ⑤ 住民やガイドとの協働による保全活動が行われているか
- ⑥ 住民やガイドとの協働によるモニタリング、メンテナンス活動は行われているか
- ジオパークの範囲が, 以下のような既存の保護・保全の制度による指定地と重なるかどうか整理されているか

・既存制度の例: 世界遺産登録地、人間と生物圏計画 (MAB) における BR (ユネスコエコパーク)、ラムサール条約登録湿地、文化財保護法による名勝・天然記念物・文化的景観・伝統的建造物群、自然公園法による指定地域 (国立公園, 国定公園等)、森林生態系保護地域等の保護林、森林法に基づく保安林、自然環境保全法に基づく自然

環境保全地域、エコツーリズム法に基づく特定自然観光資源、鳥獣保護法に基づく鳥獣保護区、ナショナルトラスト指定地、その他公的機関、研究機関等の定める自然保護、環境保全に関する指定地

- 上述の諸制度による保護地域をジオパークとしてどう位置づけているか（ジオサイトであるか否か、将来的にジオサイトになる場所であるか）
  - 上述の諸制度を所管する機関がジオパークの運営組織に参画、もしくは連携して、保全に関する協力体制がつけられているか
  - 先住民族の聖地など、地域で伝統的、文化的に保護されている場所がジオパークの中の保全すべき場所として位置づけられているか
  - それぞれの場所の地域性、歴史性に応じた保全のルールを決めているか
  - ジオパーク内で重要とされている場所が制度的に保護されていない場合、より良い保護・保全のための仕組み作りに向けて何らかの活動が行われているか
  - ガイドツアーなどを通じて、自然環境にインパクトの少ない利用が図られているか  
開発の認可にかかわる公的な機関との情報の共有が図られているか
  - ジオパーク内で行われる各種の保全事業に対して、保全の全体指針に即した助言ができる体制がつけられているか
  - 保全すべきもののリストが住民に共有され、運営団体によりその価値を伝える努力がなされているか
  - 住民やガイドとの協働による保全活動は継続的か
6. 化石・鉱物・岩石などの不正な採取、不適切な販売の防止状況
- ① 持続性のない、化石・鉱物・岩石標本類の採取、売買がジオサイトにおいて行われていないか
  - ② 化石・鉱物・岩石標本が採取されている場合、それは適切に管理されているか
  - 化石レプリカなど、化石・鉱物・岩石標本類の採取にかかわる製品の作成、開発は行われているか
  - 不正な採取や、不適切な販売を防止するための措置はとられているか
7. ジオサイトの損傷や劣化を防ぐためのメンテナンスや保護施設の状況
- ① リスト化された保全すべき場所のモニタリングが行われているか、行われている場合はその頻度
  - ② 保全に資する研究の推奨や、保全に向けた研究者による価値付けなどがなされているか
  - ジオサイトの損傷や劣化を防ぐための適切なメンテナンスが行われているか
  - 保全に関する科学的なモニタリングとその手法開発などを行っているか
  - 住民によるモニタリング活動に対して専門家のサポートがあるか

### III. 教育・研究活動（配点小計：25）

1. ジオパーク内ないし近接地域のジオパークに協力する学術研究機関の有無、あるいはジオパークのテーマと関連した研究・調査をジオパーク内で定期的に行っている機関・団体の有無
- ① ジオパーク内での学術機関による研究への支援があるか
  - ② それらの研究機関との間で、協力協定と実績があるか  
研究の成果が地域で活用できるようになっているか
  - ジオパークの質的向上に地域での学術研究が活用されているか
  - 地域研究において運営組織がハブとしての役割を果たしているか  
学術的な会議の実績があるか
2. 地元の学校の生徒、地域の人々に向けての科学・環境・防災教育の実施体制と実施状況  
<学校教育>
- ① 学校での郷土教育でのジオパークの扱い（教育委員会の方針に盛り込まれているなど）
  - ② 学校教育カリキュラムの中でのジオパークの資源活用
  - ③ 教員への研修

- 教員へのサポート（相談窓口の開設、屋内・屋外授業の支援体制）
- 学校教育用の補助教材、ツールがあるか
- 成果のモニタリングとフィードバックがされているか

<生涯教育>

- ① ジオパークの学習講座をどのような対象でおこなっているか（子ども、高齢者、観光事業者、行政職員など）
- ② 地域での学習講座にどのような自主的参加を促す工夫をしているか
  - 生涯教育用の補助教材、ツールがあるか
  - 成果のモニタリングとフィードバックがされているか

<教育全般に関して>

- ① 事務局以外の担い手づくりをおこなっているか
  - ② 地域の課題とそのジオパークによる解決を運営団体がどのくらい地元の人と共有しているか
    - 地域住民に対してジオパーク講習や説明会等を頻繁に実施しているか？
    - 地域住民の視点に立った、ジオパークの説明ができていますか？
3. 教育プログラム担当職員の状況（有無、常勤・非常勤）
- ① 担当職員が運営組織にいるかどうか
    - 何を担当しており、どのような科学的知識を持っているか
    - 職歴、教育歴は？
    - 教育委員会との関係は？
    - 非常勤の場合は、どの程度の活動内容か
4. ジオに関する出版物、ガイドブック、教材などの作成状況
- ツーリズムのチェックポイントに加えて以下を評価
- ① 地域内の学術研究の成果をまとめたデータベースがあるか
  - ② ジオパークに係わる組織・個人（観光事業者、ガイド、運営組織など）がそのデータベースに平易にアクセスできるか

IV. 管理組織、運営体制（配点小計：40）

1. 運営組織における関係自治体、必要な関係諸機関、拠点となる博物館等の参加状況、及び役割分担など運営体制の明確さ
- ① 各分野の担当者のマンパワーは十分か。
    - ・ 独立した部署があるか
    - ・ 専任の人は何人いるか？
    - ・ 各部署で行われているジオパーク活動には何があるか
  - ② 組織・運営体制・予算・人事に対する運営組織トップの姿勢はどうか（直接考えを聞く機会を用意してもらう必要あり）
  - ③ 自治体の中長期計画、施政方針演説、など自治体・首長の公的文書にジオパークが位置づけられているか
    - 問い合わせ窓口が整備されているか、外からの問い合わせに一つの窓口で対応できるか。
    - ジオパークの付随施設（サテライト）や関係団体（観光協会）等で、ジオパークに関する問い合わせに対応できるか？
    - 広域行政の計画にジオパークがあるか（自治体をまたぐ範囲の場合）
    - 自治体のジオパーク担当部署以外にジオパーク関連があるか
      - ・ 予算・決算のチェック
      - ・ 他部署のジオパーク関連事業実績を確認する
    - 首長が変わっても続く枠組みを作ろうとしているか
    - 複数自治体の場合の連携
      - ・ どのくらいの頻度で集まっているか
    - 議会との情報共有は？

- ・どのくらいの頻度で説明？
  - ・議員によそのジオパークを見に行ってもらっているか？
  - 県の担当部局との情報共有、協力関係は？
    - ・出先だけでなく本庁
    - ・知事への働きかけは？
2. 地域住民、住民による NPO などの地元各種団体のジオパークの意志決定や運営への関与
- ① 協議会の組織などの意思決定に地域住民・各種団体がどのくらい関わっているか
    - 協議会の体制、具体的な活動を確認
    - 部会の設置と運営実績を確認
    - 会議録等を確認し住民参加の実績を確認する
  - ② 事務局以外のジオパークの担い手にはどんな人がどのくらいいるか
  - ③ 地域の課題を運営団体が地元の人と共有してジオパークに取り組んでいるか
  - 各種団体からジオパークの運営団体に対して毎年の活動報告が行われているか
  - 各種団体等との間に明確な契約関係があるか。
  - ジオパークの理念から見て不適切な活動、ロゴマークの不適切な使用を止める、ジオパークの名の下で行われるツアーのガイドの質の担保等ができていますか
  - 地域住民、地元 NPO 等の活動をコーディネートする事務局内の担当者はいるか。
  - 地域住民による自発的なジオパークに関する活動、例えばジオパーク関連イベントなどがどのくらい開催されるか
  - JGN の大会、研究会などに地域住民の参加があるかもしくは参加を促しているか
  - JGN の大会、研究会などの成果を地元フィードバックしているか
  - 住民を支援する仕組みが持続可能か
  - 地域住民に対してジオパーク講習や説明会等を頻繁に実施しているか？
  - 地域住民の視点に立った、ジオパークの説明ができていますか？
  - ジオパーク活動を通してどんな地域課題を解決したいかが明確か
  - ジオパークのコンテンツ作成（ジオストーリーやジオサイトの制定など）に地域住民が関わっているか
3. ジオパークのテーマに関連する科学者、専門家の積極的な関与
- ① 研究者、専門家のジオパークに対する関与は必要十分で適切か
    - ・ジオパークの考え方に基づくアドバイスが得られるか
  - ガイド組織、ガイド教育への科学者のサポートはあるか
4. 地質・地形等の専門員の運営組織への参画
- ① 運営組織にジオパークの専門員はいるか？
    - ・その専門分野と担当は？
    - ・雇用形態は？
  - いなければそれを補う体制があるか？
5. 長期的な基本計画、中期的(3-5年)な整備計画と予算計画
- ① 基本計画とそれに基づく行動計画があるか？
  - ② 上記行動計画に基づく予算計画があるか
  - 事前に JGC 委員やほかのジオパーク関係者を呼ぶなどして、ジオパークの取り組みを積極的に学び、全体の方針に反映させているか。
  - JGN の活動に使える予算があるか
  - ガイド団体など各種団体などのネットワーク活動にジオパークの運営団体から支援できるか
  - 首長が交代しても、ジオパーク活動が継続できる体制があるか
6. 地域内外への周知のための、Website の整備など広報・マーケティングの状況
- ① 訪問者のことを考えて情報発信を行っているか
  - ② 周知のために運営組織全体でジオパークに取り組んでいるか

- ③ 周知のためにジオパークについて運営組織内で情報共有があるか
  - ・ どう情報共有しているか？メール？文書？
  - ・ 周知のために自治体ジオパーク担当以外の部署でもジオパーク活動を行っているか
  - ・ 過去の活動のチェック
- ④ 観光客の動向調査、モニタリング・アンケートなどを住民対象を含めて行っているか
  - ・ その結果をフィードバックして事業に生かしているか
- 住民、地域内外への周知のための情報共有の状況  
市報と回覧だけ？公民館などの集まりは？
- 事前に Website を確認しておく。ジオパークの訪問者としてどのような人を想定し、そこへ向けてどのような広報を行っているか、今後行うか、説明を求める

## V. 地域の持続的な発展とジオツーリズム、ガイド養成（配点小計：50）

### 1. ジョツアーの実施状況

- 住民向けのツアー
- モニターツアー
- 商品としてのツアー
- 個人客用ツアー
- 教育ツアー
- 研究ツアー
- 拠点ガイド、定点ガイド、施設ガイド

### 2. ガイド養成の仕組み

- ① 地元にジオパークのガイドの仕組みがあるか
- ② ガイドの質を保つ仕組みがあるか
- ③ お客さんからのフィードバックを得る仕組みがあるか
- ④ JGN・GGN 他地域のジオパークガイドから学んでいるか
- カリキュラムの内容は？知識のみになっていないか
  - ・ 座学だけでなく、フィールド実習などがあるか
  - ・ 環境、安全、救急法、保全、モニタリング、おもてなし
  - ・ プロガイドからの学習機会があるか
- ガイドが自ら学べる体制はあるか
- 常に最新の知見がガイドに伝えられるか
- ガイドからのフィードバック（モニタリング結果）が専門家に伝わるルートがあるか
  - ・ 相互研さんの枠組みがあるか
- 安全、リスク管理
  - ・ 安全に関わる情報がガイドやツアー客に伝わる仕組みがあるか
  - ・ ガイドの保険は？
  - ・ 事故が起きたときの連絡体制は？
  - ・ 安全に関わる訓練を行っているか
- ガイドがジオパークのテーマやストーリーを良く理解して表現しているか
  - ・ お客さんと双方向のコミュニケーションを行っているか
- ガイド団体のネットワーク、ジオツーリズム向けの勉強会などはあるか
  - ・ ジオパークガイドのネットワークはあるか、どのくらいの頻度で集まるか
  - ・ 事務局がガイドネットワーク等の団体の支援をしているか
  - ・ 事務局として既存ガイドがジオパークに取り組む支援をしているか
- 地域のジオハザードについて、適切に理解し、いざというときに訪問客などの対応がスムーズにできるか

3. ツアーの拠点となる博物館、ビジターセンター等の施設の整備状況とその運営体制
  - ① ジオパークの情報が得られる拠点となる施設があるか
  - ② 拠点はどのように運営されているか
    - ・説明できる人がいるか
    - ・野外に行きたくなる展示かどうか
    - ・野外に行けないときの代替プログラムに使えるか
  - ③ ジオパークに関する情報が地域内の観光拠点施設で得られるか
    - ・道の駅、観光案内所、人気観光スポットなど
    - ・運営団体以外が作成したパンフレット、ガイドマップ、ポスターなどでジオパークを紹介しているか
    - ・観光案内所のスタッフがジオパークの巡り方の紹介ができるか？
  - 関心の高い訪問者への情報提供があるか？
4. ジオサイトの説明板、パンフレット等の整備状況とわかりやすさ
  - ① ジオパークとして伝えたいことを、バランス良く各種媒体で伝えるために、拠点施設の展示、説明板、ガイドブック、マップ、パンフレットなどを整備する計画があるか
    - ・拠点施設、説明板、ガイドブック、マップ、パンフレットおよびガイドによる案内の役割をどう位置づけているか。施設や説明板に頼りすぎているか
    - ・ルートに沿って巡るとストーリーがわかるようになっているか
    - ・訪問客の目線と導線に即した情報の提供（パンフやマップの置き場所、案内板の設置場所と内容）
  - ② 科学的根拠の担保を誰がどのように行うか、正確さとわかりやすさのバランスを誰がどうやって取るか
  - ③ 説明板が簡単に更新できるようになっているか
  - ④ ユニバーサルデザイン
    - ハンディのある方が楽しめる場所やしくみがあるか
  - 説明板、ガイドマップなどの内容を誰がどういうプロセスで作るのか？
    - ・地元やガイドの参画、子供たちの参画はあるか
    - ・お客さんの声のフィードバックが整備に生かされているか
  - 説明板、ガイドマップに代わる新たなツールの試みはあるか？
5. ジオツーリズムを成立させるために必要な関連企業との連携および広報活動
  - ① 地元の観光関係諸団体との連携の下に活動を行っているか
  - ② 観光事業者・従業員・接客者向けの講座、講習会などを行っているか
  - ③ 宿泊施設、交通機関、各種関連企業との連携した取り組みはあるか
    - 旅行者向けの営業活動を行っているか
    - ジオパーク地域外で広報活動を行っているか
    - 民間で作ったジオパーク関連施設、パンフレットなどがあるか
6. ジオパークの体験プログラム
  - ① 新たにジオパークと結びついた体験プログラムを開発・改良したか？
    - ジオ学習的な物だけでなく、ジオパーク的な食・農・工芸などもあるか
    - 体験プログラムの窓口があり、容易に参加できるか
7. ジオ関連商品などの地域の資源を生かした商品開発
  - ① ジオ関連商品があるか
  - ② 商品にジオパークのストーリー、地域の風土との関連はあるか
  - ③ 地域のジオを生かした商品の開発を支援しているか
    - 商品開発に関して何かルールはあるか
    - ロゴマーク、マスコットキャラクターなどがある場合、その利用に関するルールがあるか
8. 公共交通機関、自転車、徒歩でのジオパーク内の周遊への対応
  - ① そのようなルートがあるか



- ・わかりやすく案内されているか
- ② なければ、計画されているか
- 関連事業者と連携が取れているか

#### VI. 国際対応（配点小計：10）

##### 1. 説明板、ガイドマップ、ガイドブック、パンフレットの多国語化の状況

- ① 外国人に何らかの対応をしているか
- ② website, ガイドマップ、ガイドブック、パンフレット 説明板の多国語化の状況
- どのくらい外国人が来ているのか情報を収集しているか、今後どのくらい受け入れたいのか
- 習慣の違いによるトラブルを避ける工夫がなされているか
- 医療、宿泊など保安・ツーリズム関係の対応状況、受け入れ体制を把握しているか

##### 2. 外国語対応のガイド養成の状況

- 外国語対応のガイドはいるか

#### VII. 防災・安全（配点小計：10）

##### 1. ジオパーク内の住民、訪問者に対するリスクの分析に基づく、防災・安全対策の状況（ハザードマップの作成と周知、防護柵等の安全施設や避難施設の設置ほか）

- ① ジオパークの基本計画や事業に、防災・安全に関する項目があるか
- ② ジオパークを活用して防災教育を行っているか・ハザードマップをツーリストに周知活用しているか
- ジオツアーで利用する遊歩道の防護柵等の安全施設や避難施設の設置、適切な携行人数
- ヘルメット・ゴーグル等保安用具の準備
- 地域のこれまでの災害に関する記録のデータベースを持っているか
- ジオパークの運営組織と防災関係機関の連携が取れているか
- 緊急時の災害情報がガイドや訪問者などに伝わる仕組みがあるか
- 防災ツーリズム、復興ツーリズムの状況

(合計 200)